夢の実現へ!!

～卒業生からの熱きメッセージ～

そうだ、京大へ行こう

京都大学　法学部　後藤　唯

在校生の皆さん、こんにちは。一年間の浪人生活の末、この春ようやく京大生になることができました。憧れの京都大学。心躍る思いです。無事、志望校に合格した私から、在校生の皆さんにエールを送りたいと思います。稚拙な文章ですが、読んでいただけたら幸いです。

この一年間、つまり浪人生活を通して私が学んだことは、「浪人は辛い」ということです。もちろん実りの多い一年ではありましたが、もう後がないという焦りと、浪人して果たして成績は上がるのかという不安が常にありました。幸い、私は順調に成績を上げていくことができましたが、友人の中にはそうでもない人も多かった様に思います。だから、こんな辛い思いをしないためにもやはり現役合格が一番です。現役合格のコツはたくさん勉強することと。単純なことですが、高校時代の私はそれができませんでした。それまでの人生で挫折というものを味わったことがなく、大学受験を甘く見ていました。でも実際には受験は本当に厳しくて、半端な勉強では太刀打ちできないものでした。受験の世界では、たくさん勉強してそれを自分のものにした人の勝ちです。勉強をすると、自分の苦手な所が見えてきます。苦手な所がわかると、焦って不安になります。でも、不安は緊張感を生み出し、その緊張は集中力の源になるのです。一見効率の悪い勉強法のように思えますが、集中して取り組むむしろ効率がアップするので、少なくとも私にとっては最善の策でした。ただし、たくさん勉強するといっても、睡眠時間は削らないように！

では次に、京都大学を目指す人へ。文系に関していえば、京大の入試では数学が要である思います。京大に限らず、文系で数学が得意だと他の人とかなり差をつけることが出来ます。しかし、京大数学で全問完答するのはほとんど不可能です。かといって、誰にも手が出せないような問題ばかり、というわけではありません。「解かなければならない問題」と「時間の無駄遣いを防ぐために捨てる問題」（皆が出来ない問題）を見抜く力が必要です。この力は過去問などの問題を演習する中で得られるものなので、たくさん問題を解きましょう。数学はやるとすぐ上がるので、勉強の成果を早くが見えてきます。苦手な所がわかると、焦って不安になりなくなると、途端に下がってしまう厄介な教科です。また、私の場合には、「解けなくなる時期」というのがあって、それがセンター後にやって来た時にはかなり動揺しました。周りの友達はどんどん成績を上げていく一方、私の焦りは募るばかり。自分のやり方に不安を抱きつつ、こうなったら自分を信じて貫いてやる！という思いで直前期を過ごし、迎えた試験当日。私の不安とは裏腹に、数学に関しては抜群の手応えを感じました。試験直前にスランプに陥った皆さんの、大丈夫です。自分を信じて続けていれば、本番では解けるはずです。最後まで自分を信じて、諦めないこと。これが大事です。

最後になりましたが、中学の時のA先生、高校のS先生、N先生、そのほか多くの先生方には大変お世話になりました。有難うございました。これから受験を迎える皆さん、自分の行きたいところ、したいことを思い描きながら頑張って下さい。皆さんの健闘を心から祈っています。

伝えたいこと

熊本大学　医学部 医学科　宮崎　麻衣

皆さん、こんにちは。ここ数日、後輩の皆さんに何を伝えるべきかずっと考えていました。あまり上手い文章ではありませんが、少しでも参考にしていただけたら嬉しいです。

私は現役の時も熊大を受験したのですが、その年の成績開示を見ると合格最低点を一〇〇点ほど下回っていました。ちなみにセンターはそれなりの点数はとっていました。二次力がほとんどついていませんでした。その状態からのスタートでも何とかなります。なので、今の成績を見て志望校を決めるのではなく、一年後にはこの大学のレベルに達するんだ、と強気な態度で志望校を決めて下さい。受験生活中は気持ちのブレが何度も起こります。その時に支えとなるのは、やはり志望校に対する思いです。本当に行きたいと所を見つけてください。

勉強面で大切なことは、苦手科目から逃げないことだと思います。私は数学が全くできなかったので、この一年はとにかく数学の問題を解いていました。苦手な科目ほど何をすればよいのかわからないということはありませんか？そういう時は先生達に頼ってみてください。きっと的確なアドバイスをくださると思います。私も何をすればよいのか全くわからなかったのでずっと先生を頼っていました。自分の経験から具体的な数学が苦手な人は夏休みまでに特に苦手な分野のテキストを一冊終わらせることをお勧めします。私はベクトルの範囲が苦手だったので、某有名テキストの数学Bを解きました。問題集を一冊終わらせたことがなかったので、これはかなりの自信につながりました。

と、自分のしてきたことを挙げてみましたが、やはり大事なのは気持ちで負けないことです。私が特に皆さんに伝えたいことは、あきらめないということです。

センターで九割とらなければ医学部は難しい、とよく耳にしますが、「難しい」のではなく「心に余裕ができる」だけで、決して「不可能」ではないと思います。私はセンターで失敗してぎりぎり八割の点数でした。正直、熊大は無理だと思って志望校変更も考えましたが、やはり熊大に行きたかったので、無謀でも挑戦することにしました。私の本当の意味での受験生活はセンター後から始まったと言えると思います。先にも述べた通り、私は数学にかなりの苦手意識をもっていたので、二次での逆転はとてもプレッシャーでした。あの時期を振り返ると本当にきつかったです。私がこの時期を乗り超えられたのは周りの人の支えがあったからです。毎日支えてくれた家族、不安な気持ちを聞いてくださった先生方、そして志望校を目指して一緒に勉強してきた友人達には本当に感謝しています。ありがとうございました。

こうして思い返すとやはり気持ち次第なんだと感じます。力がある受験生はたくさんいますが、それを本番の緊張感の中で発揮するのが難しいんだと思います。本番を意識した勉強をしてみてください。

長々と自分の経験を書いてしまいましたが、後輩の皆さんが、「こんな点数でも受かるんだ！」とでも思ってくれたら嬉しいです。①本番に発揮できる二次力②志望校への無駄遣いを防ぐ③最後まであきらめない粘り強さ④周りの人への感謝の気持ちを是非身につけて下さい。特に大事なのは④です。こんなの当たり前と思われるかもしれませんが、そうなんです。当たり前のことしかないのです。そしてその当たり前が一番難しいのです。絶対、気持ちで負けないで下さい。皆さんの志望校合格を祈っています。最後まで読んで下さってありがとうございました。

受験を振り返って

九州大学　薬学部 臨床薬学科　徳重　愛弓

真和の皆さん、こんにちは。この真和通信の依頼を受けた時は正直驚きましたが、皆さんに読んでいただける事いること嬉しく思います。私はAO入試を受験したので、ここではそれについて書きたいと思います。

「AO入試」というものについて、もしかしたら皆さんの中には「一般入試より断然いい事や、興味のある事を熱く習すれば楽勝じゃん」とか考えている人がいるかもしれませんが、それほど簡単なものではありません！実際私も始めのうちは、意外といけるんじゃないかな…なんて思っていたのですが、甘い考えだとすぐに思い知らされました。

第一難関は志願理由書でした。おそらく、どの大学、学部でも出願時にこれを書かなければならないと思います。書き始めはどうするのか、どんな内容を中心にするのか等…締切り間近で焦っていたのを覚えています。ここでやらなければならないのは、まず一番に志願する大学や学部をとことん調べること。自分が夢を実現するためには、この大学のこんな所が必要なんだ！と伝えなければいけませんの。あとは、自分が研究したい事や、興味のある事を熱く語ること。これは面接の時も一緒です。私はこの二つのために、限られた時間で科学雑誌や関連小説を読み漁り、インターネットから印刷してはマーカーで線を引く作業を繰り返していました。もちろん、授業の予習や、毎週のように行われる模試のやり直しもありますから、この時は寝不足が普通でした。

第二の難関は、筆記テストと面接でした。ここで私が一番伝えたいのは „練習しても、本番で活かせるかはわからない“ということです。これは、練習しても意味がないということではなくて、本番でとっさに対応する力も必要だということです。私は筆記テストのために、英語の長文や生物、化学の過去問を何問も解いた問題は形式が違っていて、開いた瞬間鉛筆が止まってしまいました。面接でも、用意していた返答があまり使えず、見たこともないグラフを用いての口答試問だったので、終わった後は「死んだ…」という感じでした(笑)。面接に関しては、自分を良く見せる為に神経を使うより、その時考え付いた事を素直に話した方が良いと思います。私も今思えば、途中でそのスイッチを切り替えていなかったら、奇跡的に合格することもなかったかもしれません。

これまで書いてきた事を読んで、AOも大変だということが理解していただけると幸いです。きつそうだからといって、受験生の皆さんがAO受験を候補から外すことはしてほしくないですが、自分も乗り越えてみせる！という気持ちを持ってほしいです。

最後に伝えたいのは、家族や友人をはじめ、支えてくれる周囲の人達を大切にしてほしいということです。私は受験を通して、本当に自分が多くの人から助けられたことを感じました。プレッシャーで泣き出してしまった時も、合格発表で自分の番号を見つけた時も、側にいてくれた友達、家で応援してくれた家族、本当にありがとうございました。三年間担任として指導して下さったI先生、受験まで添削して下さったA先生、生物のN先生、面接指導から大学の宿題までお世話になった化学のN先生、その他大勢の先生方に心から感謝セージだと思います。月並みなメッ生の皆さんも感謝の気持ちを忘れず、自分を信じて頑張って下さい。私のように、E判定でも奇跡は起きます。

最後まで拙い文を読んでいただきありがとうございました。皆さんの御健闘を祈っています。

自分を信じて

大分大学　医学部 医学科　牛嶋　真也

真和の皆さん、こんにちは。今年、志望校に合格でき、こうして真和通信に寄稿させていただけることをうれしく思います。正直、作文がとても苦手なので下手な文章ですが、参考にしていただけると幸いです。書きたいことがたくさんあるのでいくつかの項目に分けて書きたいと思います。

● 勉強方法について

まず、勉強方法について書きたいと思います。受験勉強をする上でとても重要なのは基礎を固めることです。数学でいうと数学ⅠA、英語でいうと英単語や英文法、国語の古文では古文単語といった感じのものです。基礎の勉強はやっていてもつまらないので、ほとんどの人はおろそかにしがちです。しかし、基礎が固まっていない人は、受験直前期にあまり成績が伸びず、とても苦労します。私もそうでしたが、受験直前期に成績が伸びないのは精神的に本当につらいです。では、基礎の勉強はどのようなことをすればよいのか。その答はとても簡単です。毎日毎日の積み重ねです。一日十分か二十分の積み重ねで基礎力が本当に付くと思います。私もこの一年、毎日欠かさずに英単語と英文法の勉強を続けました。その結果、志望校に合格することが出来たので、みなさんもぜひ基礎力を大事にして下さい。

また、お互いに教えあうということがこれから勉強で大切だと思います。普通に授業を受けただけのとき、その内容の記憶への定着率が五％程度なのに対し、人に教えた場合の記憶への定着率は約九〇％だと言われています。私も得意な数学をよくクラスメイトに教えていました。そのおかげで自分の弱い部分を知ることも出来たし、人に教えた内容はなかなか忘れることがありませんでした。ぜひみなさんも試してみて下さい。

● 医学部受験について

真和生の中には、医学部を受験するという人も多いと思うので、医学部受験についてそうでしたが、受験直前期に書きたいと思います。医学部の医学科は大学受験の中でもかなり難しいと言われる学部の一つです。また、浪人生がとても難しいと思われます。そんな医学部を合格するために、そこでも大事になるのは センター試験です。医学部は東大や京大の受験よりも、センターの得点率が大事ともいえるほどセンター試験が大事です。センター試験が悪ければ、大学によっては受けることすら出来なくなるのです。センター試験の勉強は欠かせません。センター試験ではやはり基礎力が大事です。また、センター試験では時間がとても大事になってきます。日ごろから問題を早く解く勉強をしておくとよいと思います。

●その他のことについて

次に、学校生活などについて書きたいと思います。まず、学校の授業は大事にして下さい。学校の授業は一人でしないで分野などもすることになるのでとても効率よく勉強できます。また、睡眠はよく取るようにして下さい。睡眠を取らずに勉強をしていると実力はまったく付きません。注意して下さい。生活のリズムを変えないことも大事です。日頃から規則正しい生活を送ることが成績の向上につながると思います。がんばって下さい。

● 最後に

これまで、さまざまなことを教えて下さったり、相談にのっていただいた真和の先生方に感謝しています。本当にありがとうございました。

私の下手な文章でしたが、読んでいただき、ありがとうございます。真和生のこれからの健闘を心から祈っています。自分を信じてがんばって下さい。

成功を勝ち取るために

早稲田大学　教育学部　山口　悠子

私の合格は、本当に多くの方々の支えがあってこそ成しえたものです。それは家族、先生方、友達、先輩方、後輩達…そして何より吹奏楽部の存在でした。

思い返せば、私が吹奏楽部に入部したきっかけは、この真和通信でした。真和通信に書かれた吹奏楽部の先輩のメッセージに心打たれ、入部したのを覚えています。以来、私が記憶している範囲で、吹奏楽部の先輩方はこの真和通信に毎年載られ、熱いメッセージを在校生の皆さんに送っておられます。今年は自分がその先輩方の後を引き継ぎ、こうして真和通信の原稿を書かせていただけることを光栄に思います。

吹奏楽部で学んだ精神や考え方は、私の受験だけでなく、私のこれまでの人生に大きな影響をもたらしました。そしてこれからの人生にも影響していくことでしょう。そんな私の人生観をも変えた吹奏楽部で学んだ多くのことから、最も印象強く残っている二つの事柄をここで紹介したいと思います。

一つ目は、「「やりたいこと」を一生懸命にできない人ではないこと」を一生懸命にできるはずがない」ということです。よく部活をしていて勉強の時間がなくなる…などという考えを耳にしますが、受験を終えた今、私は決してそうではないと確信しています。実は私も入部当初はこの考えで、部活と勉強の両立に不安を抱いていました。しかし、入部して先輩方が「やりたいこと（部活）とやらなければならないこと（勉強）両方やり遂げなければ意味がない。そもそもやりたいことに一生懸命になれない人が、やらなければならないことに一生懸命になれるはずがない。逆にやりたいことに一生懸命になれない人は、やらなければならないことにも一生懸命になれる」という言葉を私にかけて下さり、考え方が大きく変わりました。時間があるとかないとか、その様な事で物事を決めつけていた自分がなんて愚かだったのだろうと感じた瞬間でした。今まで時間の有無で物事を考えていた皆さん、是非考え方を変えてみませんか？きっと今後の学校生活が、もっと言えば人生がより有意義なものになると思います。

二つ目は、「感謝の心を忘れてはならない」ということです。日常の生活に皆さんは感謝しているか？例えば、部活ができるのは、場所を提供してくださっている学校のおかげだし、楽器の音を我慢してくださる地域の方々や、楽器を揃えてくださった先生やOB、OGの方がいらっしゃるからであり、そして周りで支えてくれる家族や友達がいてくれるからこそ…。一つの例を挙げるだけでも私達は本当に多くの方々から支えられているのだな、と思いませんか？私達は本当に多くの方々から恩恵を受けています。その方々への感謝の気持ちを忘れなければ、一人で生きているのではないということを忘れなければ、私達は自分の行動に責任を持ち、何事もやり遂げられると思います。感謝の気持ちは私達の行動の原動力となるはずです。これから社会に出て行くにあたって必要なさまざまな考え方、行動力の大切さを教えてくださいました。更に、私の受験期には、小論文の書き方、添削、面接の練習などまでしていただきました。こんなに自分のことを親身になって考えてくださる先生に出会えて、そして信頼できる仲間に出会えて、いつも笑っていられる場所「部活」ができて、私は本当に幸せ者です。

在校生の皆さん、勉強は学生の本分ですが、学生の頃にしかできないこともたくさんあります。皆さんには是非、欲張って両方を勝ち取り、学校生活でもう心残りはない！と胸を張って卒業してもらいたいと思います。皆さんの健闘を心から祈っています。

夢を追い続けるということ

鹿児島大学　医学部 医学科　光吉こころ

みなさん、こんにちは。私は今、二年間の浪人生活を終え、念願の医学部に合格することができ、ほっとしています。そして今こうして憧れだった真和通信に寄稿させて頂けること、とても光栄に思います。拙い文章ではありますが、私が真和での六年間と二年間の浪人生活を通して大切だと感じたことについて少しお書きしたいと思います。少しでも参考になれば幸いです。

まず一つ目は、志は貫き通す、ということです。私が医師を志し始めたのは小学生の頃で、それ以来、その気持ちが変わったことはありません。成績が思うように伸びず、落ち込んだ時はいつも「絶対に医者になる！」という強い気持ちが背中を押してくれました。強い気持ちがあれば、辛くて立ち止まってしまった時も、きっとまたそこから歩き出せると思います。

二つ目は、常に自分の一〇〇％でいる、ということです。これは、全力で勉強するという意味だけではありません。私は現役・一浪の時、受験は全力で勉強しさえすれば必ず通過できる関門だと思っていました。しかし、勉強一筋だった私は、狭い視野でしか物事を考えられなくなり、精神的にも参ってしまいました。そこで、二浪目は時間の使い方を変え、テレビ・友人とのおしゃべりなどの息抜きを同時も取りつつ、かつ、短い時間で効率的に勉強できるようになりました。そのおかげで精神的にも安定し、また、息抜きのつもりでしていたことを通して新しいことを知る機会も増え、以前より少しも広い視野で物事を考えられるようになりました。現在、医学部では直接試験を課す大学が増えており、視野の広い医師への需要が高まっています。また、医学部だけでなく、現代社会自体が視野の広い人材を求めています。大学受験はそのような社会で活躍する力をつけるための一つのステップです。忙しい受験期に勉強以外のことなんて考える暇はない、と思う人もいるかもしれませんが、受験期だからこそ色々なことに目を向け、全力で学び、全力で毎日を過ごしてほしいと思っています。

三つ目は、感謝の気持ちを忘れない、ということです。私も浪人時代は、つい感謝の気持ちを忘れがちでした。「浪人生なんだからこれくらいはできなきゃ」そう思う気持ちばかりが先走り、結果が思うようにいかず悩んでいた時、自分の現状へのいら立ちの方が大きく、感謝の気持ちなど、すっかり忘れてしまっていました。でも、予備校での生活に馴染めず悩んでいた時、真和には私を温かく迎えて下さる先生がたくさんいらっしゃいました。身近には、何度失敗しても、また私の夢の実現のために一緒に走り続けてくれた家族がいました。そして、たくさんの人達が私の合格を自分のことのように喜んでくれたことが嬉しく、改めて感謝の気持ちは忘れてはいけないなあと思いました。

ありきたりのことばかり書きましたが、これらは全て大切なことだと私は思っています。勉強法などは多くの人が書いているので、私はそれ以外を書いてみました。

前期試験で第一志望の大学から抱いたあの悔しさをわずかながら晴らしたい気持ちを抱いて来た私も、今は新しい土地での生活に胸をふくらませています。努力の先にはどんな形であれ、必ず幸せが待っています。私は今年、やっとそれに気付くことができました。みなさんもそれぞれ、自分の夢を追い続けて下さい。必ず何か得られるものがあるはずです。

最後に、応援して下さった先生方、本当にありがとうございました。真和の素晴らしい先生方のご指導のもと、在校生のみなさんが夢を実現されることを祈っています。

為せば成る

早稲田大学　社会科学部　友枝　紗暉

皆さん、こんにちは。いつも読み手であった自分がこの真和通信に寄稿させていただくことになり、大変光栄に思います。参考になるかはわかりませんが、受験生活を振り返って大切だと感じたことを書こうと思います。少しでも皆さんの役に立てば嬉しいです。

まず、健康第一だということです。長い受験生活を乗り切るためには体力も精神力も要ります。自分の体調管理をしっかりしておかねばなりません。そのためには規則正しい生活をし、充分に睡眠をとることが大切だと思います。例えば、起きる時間や勉強する時間を決めて、土日も含めて実行してみてください。時間を決めてやらないと土日だからといって遅くに起きてしまったり、夜更かしをしたりして生活のリズムが崩れてしまいがちです。そうすると、翌日の遅刻や授業中の居眠りの原因になってしまいます。遅刻、欠席はNGです。遅刻や欠席は心の弱さの現れだと思います。規則正しい生活をし、充分睡眠をとるよう心がけることで遅刻、欠席が減るのではないでしょうか。ちなみに私の場合、六年間皆勤でした。皆さんも規則正しい生活を心がけ、遅刻、欠席のないよう心がけてください。そして、学校の授業は大切にしてください。受験間近になると、家や塾に籠ってしまいがちですが、新しい参考書を次々に買ったり、塾でばかり授業を受けるより、学校に出てきて、授業で習ったことを一〇〇％自分のものにすることの方が効果的だと思います。また、学校で友達が頑張る姿を見て自分も頑張ろうと刺激を受けたり、友達と他愛のない会話をして不安が紛れたりします。友達との会話はとてもいい息抜きになります。勉強がはかどらなかったり、きつくなったりしたら思い切って休むのもいいと思います。

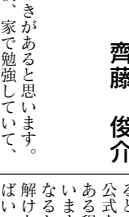
次に、最後まで絶対に諦めないでください。試験本番の日は緊張や不安などから気持ちが乱れてしまいがちです。実際私も第一志望大学の試験日にはまいました。そんな時、決してマイナス思考にならずに、本番でどんな難問にぶつかっても自分を信じて、強い気持ちで臨んでください。努力は決して裏切らないし、やった分だけ返ってきます。そして早めに志望校を決めることをオススメします。その大学に行きたい理由なんて何でもいいです。どれだけその大学に「行きたい」と思えるかが大切だと思います。私が合格をつかむことができたのは、受験直前に解いた過去問の点数がどんなに悪かろうと模試の判定が悪かろうと（悪くても復習は大切）志望校に対する強い想いがあったから、最後まで絶対に諦めなかったからだと思います。

そして、これが最も大切なことですが、感謝の気持ちをとても忘れないでください。私達はいつも多くの人々に支えられて生きています。家族や友達、先生方など、いつも誰かに見守られ、助けられています。受験で辛いとき、励ましてくれたり、時には厳しい言葉をかけて気合を入れてくれたりしてくれる人がいます。自分のことを応援してくれる人がいます。その人たちへの感謝の気持ちを絶対に忘れないでください。

伝えたいことを全てつめこんで書いたため、多少読みにくい文章になっているかと思いますが、少しでも参考にしていただけたら嬉しい限りです。ここまで私を支えてくださった全ての方々、本当にありがとうございました。最後に私の一番好きな言葉を贈ります。「為せば成る　為さねば成らぬ何事も　成らぬは人の為さぬなりけり」。皆さんのご健闘をお祈りしています。

自慢話

大阪大学　基礎工学部 化学応用科学科　齊藤　俊介



浄土宗奨学生、特待生、知事賞など様々な賞をいただきましたが、僕が一番欲しかったのは大学合格とこの作文の依頼でした。二つともゲットできたのでとても幸せです。なので今回は、定評ある国語力をフルに活かして、高Ⅲの皆さんにとって少しでも役に立つ文章を書けたらと思います。

自分の勉強方法を書こうと考えていましたが、最近は本屋さんにいろいろな学参があるので、なかなか書きづらいです。ですが、一、二個書きます。

まず、睡眠についてです。皆さんは人間なので、たぶん眠いときがあると思います。僕も夜、家で勉強していて、眠いときがありました。そういうときに、中には「ここで寝たら負けだ」といって無理に勉強を続ける人がいると思います。それもアリですが、僕は眠いときに寝ました。しかし僕の場合、ただ単に寝るだけではありません。次の日の朝、ロスした時間の分、勉強して学校に行きました。ときには、朝の四時頃に起きて勉強したこともありました。この方法は全員に薦められるものではないと思いますが、夜、十一時頃になったらどうしても眠い、という人は是非お試し下さい。

次に勉強についてです。僕は理系だったので、数学や理科を勉強していたんですが、そのときに意識してやっていたことは、公式だけを覚えないということです。どういうことかというと、公式がどのようにして生まれたのかを知るということです。たしかに公式を丸暗記するだけでも、ある程度の問題は解けると思います。ですが難しい問題になると公式だけでは太刀打ちできなくなると思います。しかし、「公式の生まれた里」を知っている人は、公式の受験生活を通して、新たに好きな学部が見つかるかもしれません。それに、特に理学部が決まらない人、特に理学部が決まらずに迷っている人には基礎工学部をお薦めします。基礎工は、国立では、今のところ阪大にしかありません。基礎工の「基礎」の意味は、基礎の工学部ではありません。基礎工とは「理学部と工学部の融合」です。理学部と工学部のおもしろい所だけをあつめたのが基礎工学部です。と、大学の先生がおっしゃっていました。

などなど、最後の方は自分の学部の紹介でマスを埋めてしまいました。すいません。

最後に、この作文が締め切りに間に合わずに、先生方には迷惑をかけたと思いますが、三年間ご指導していただき心より感謝しています。国語力を二割程度しか発揮しておらず、読みにくかったと思いますが、最後まで目を通していただきありがとうございました。

皆さんの御健闘を祈っています。

今、三年生の中には、はっきりとした志望校のある人いるかもしれません。これからの受験生活を通して、新たに好きな学部が見つかるかもしれません。それに、特に理学部が決まらずに迷っている人には基礎工学部をお薦めします。基礎工は、国立では、今のところ阪大にしかありません。基礎工の「基礎」の意味は、基礎の工学部ではありません。基礎工とは「理学部と工学部の融合」です。理学部と工学部のおもしろい所だけをあつめたのが基礎工学部です。と、大学の先生がおっしゃっていました。

などなど、最後の方は自分の学部の紹介でマスを埋めてしまいました。すいません。

最後に、この作文が締め切りに間に合わずに、先生方には迷惑をかけたと思いますが、三年間ご指導していただき心より感謝しています。国語力を二割程度しか発揮しておらず、読みにくかったと思いますが、最後まで目を通していただきありがとうございました。

皆さんの御健闘を祈っています。

そうだ、先輩に聞こう

神戸大学　海事科学部　荒牧　徳治

今回この真和通信への寄稿依頼をいただき大変光栄に思います。果たして自分でいいのかと思いながらも皆さんに伝えたいことはたくさん思い浮かび、筆を進める次第です。

「受験についての話を先輩ひ言ってやりたい言葉です。受験直前期にもなればあれをすれば良かった、あれをしてなかったら今ごろ大変なことになっていたかも等々、たくさん出てきました。思えば初めての道を地図も持たずに歩いたような危うい一年でした。教科は色々ありますが受験生は「受験」というものをするわけです。皆さんにはぜひ、新生活を始めている先輩をとっつかまえて受験の体験談という地図を受け取ってから、質の良い一年を送って欲しいと思います。これが私が一番伝えたいことです。

そういうわけで、ここからは私の体験談を書きたいと思います。体験談とは性質上、個人的で具体的なものなので人勢の方には当てはまらないとは思いますが、ある受験生の一例として取っていただければ幸いです。

●受験生へ進化？

私は受験期になれば問題集をバンバン終わらせていると思っていました。でもそれは違いました。驚くことに、本当に完璧にやり込んだと思える本は一冊もありませんでした。受験生の自分も今の自分の延長にすぎません。変わるなら今です。「この一週間はこの単元をマスターする」という方法でこれと決めた一冊を確実にこなしていくクセをつけてみて下さい。

●参考書とのおつきあい

一、二年のときは敬遠していた参考書にももちろん良いものがあることに気づきました。売り場に行くと全部欲しくなりますが誰かのオススメを聞くとたいがい良いです。私は「富田の英文読解一〇〇の原則」をやりました。入試前三週間で英文法の重要性を悟り、これに出会わなければ…と冷や汗ものでした。また「ドラゴン桜東大合格徹底指南」等の「受験」についての参考書も自分の勉強の指針となりました。

●真和サテライトとのおつきあい

サテライトで良かったことは、安いこと、学校内にあること、時間の大切さがわかること、そして何より一年間やり抜くことでその科目に自信がつくことでした。私は物理の「解法の必然性」をやりました。一学期は解ける気のしなかった物理でも私の好きな科目に変化した。参考書でもサテライトでも新しい見方でその教科に取り組めるのが良いことでした。しかし、あくまでも授業が主体だということは忘れないで下さい。毎日の授業は朝から夕方までみっちりです。三年間真和の教室で友達と先生方と発憤忘食？したことは小手先ではない、本物の土台となります。

●自分の夢

私の夢は航海士になることです。我ながらいい夢を持ったなと思っています。航海士になると思い立ったのは高三前の四月でした。本当に突拍子もない思いつきで、最初親に話した時は自分でも冗談だろと思ってしまいました。しかしこの春、晴れて航海士へ一歩前進したわけです。行きたい大学へ行かせてくれる周りの方々に感謝感謝です。なんて恵まれているんだと感じます。高校生のときに自分に合った職を見つけるのは不可能だと思いますが、大学の学部である程度の方向性は決まります。偏差値を元にコンピューターで選ぶのではなく、自分の純粋な好奇心を元に自分で行きたい大学を本当に真剣にみて下さい。

高校生活を楽しむことも忘れずに粘り抜いて合格を手にして下さい。皆さんの御健闘を祈っています。下手な文章でしたが御一読下さりありがとうございました。

新道流受験術

広島大学　教育学部　新道　岳章

真和の皆さん、こんにちは。私はこの文章を入学式を間近にひかえ広島で書いています。これから私がどのように受験をのりきったかをいくつか書いていきたいと思います。一つでも参考にしていただけると幸いです。

まず一つ目は勉強と部活の両立についてです。世間的に「部活ばかりやって勉強はいいのか？」という風な意見もあるかもしれません。しかし私はそうは思いません。実際私は卓球部に所属しており基本毎日練習していました。テスト前も先生に卓球の鍵を隠されるまで練習したほどでした。「時間がないから仕方がない」そう言って自身を正当化している部活生も少なからずいるのではないでしょうか。これは二つ目に挙げる時間の使い方についてと重なりますが、自分の一日を振りかえれば無駄な時間がけっこうあるはずです。そのような時間を勉強にあてれば自身の生活習慣が改まります。自分の大好きな部活ができて勉強もでき、生活リズムも良くなる、良いことづくしと思いませんか。部活に一生懸命になれる人が勉強に一生懸命になれないはずはありません。部活生の皆さんは希望を持って頑張ってください。

二つ目は時間の使い方についてです。一つ目の途中で出てきましたが、一日を振りかえれば無駄な時間がかなりあるはずです。最悪な例としてはテレビを見すぎて気付いたら二時だった。予習、復習してないけど朝課外あるからもう寝よう。そして課外に遅刻という具合です。私は三年間寮に入っていたので毎日三時間ほどの学習時間があった。寮にもテレビはありましたが、私は金曜ロードショーでジブリシリーズを見る程度でした。私は高二から毎日の学習の後に二時間ほど自分で勉強をするようにしました。このような生活も習慣になってしまえば楽なものです。これから皆さんがしなければいけないことは自分の一日を振りかえってみることです。そして少しでも無駄をなくす努力をすることです。時間は人間に与えられた唯一の平等なものです。大事にしましょう。

三つ目は勉強中の息抜きについてです。二つ目の時間についてで無駄をなくせと言いましたが、ずっとガリ勉では胃が痛くなります。私の場合は毎週月曜に週刊少年ジャンプを読むのが息抜きでした。これは総体が終わってから受験モードに入ってもかかしませんでした。皆さんも何か自分だけの息抜き法を見つけることはおすすめです。ただし、しっかりけじめをつけるようにしましょう。

最後に自分をいかにして奮い起たせるかについてです。勉強をする時間があってもヤル気がないのではどうしようもありません。そんな時に、どんなつまらないことでもいいから動機があると全然違います。人に言いづらい恥ずかしいことでもまったくかまわないと思います。私の場合は一つ挙げるならばいかにジャンプを快く読めるかということです。例えば日曜に模試があればいやなことは自分の一息抜きどころではありません。良かったら次も頑張ろうという気になります。このように私は毎週月曜を快くすごせるように毎日頑張りました。その他にもありますが今回は遠慮させていただきます。

以上の四点が私の受験の支柱です。新高三は受験に対して焦りを感じ、新高一、二は まだ実感がないでしょう。しかしこれからの努力や工夫次第でどんな結果にもなりえます。真和の皆さんが自分の勉強スタイルを確立し、合格を勝ちとれることを願っています。

受験を終えて思うこと

筑波大学　体育専門学群　大川創太郎

真和の在校生の皆さんこんにちは。今回無事念願だった筑波大学に合格することができ、真和通信を書かせて頂くことを大変光栄に思います。ですが、僕の学部は体育専門学群という特殊な学部なので皆さんのお役に立つかわかりませんが、これを読んで何か感じるものがあれば幸いです。

僕は高校の三年間真和にお世話になり、様々なことを学びました。その中で僕が受験で大切にしてきたことをいくつか述べたいと思います。

まず僕が一番大切にしてきたことは、志望校は一つに必ず絞り込み、他の大学のことは考えないことです。そうすることで、早めに志望校の対策が打てますし、あえて逃げ場をなくすことで勉強せざる環境が作れると思います。

次に、遅刻・欠席は絶対にしないことです。受験期後半になるとあせって、課外や授業を休んで勉強しようとする人がでてきますが絶対に逆効果だと思います。どんなにくだらないと思う先生の授業でも、自分では気付かない自分の弱点を気付かせてくれます。それに、遅刻・欠席が多い人は絶対と言っていいほど大学に受かっていません。なので授業には必ず出ましょう。

そして、これは意外とみんなしていないんですが、週に何回かは軽い運動で汗を流すということです。実際に僕は、週に一、二回ランニングに出かけたり、体育の授業でも汗をかくほど積極的に動いていました。そになり、より集中力が増しますぜひ皆さんも試してみてください。

四つ目に自分が秘めている可能性を信じて疑わないことです。僕自身、真和という厳しい環境の中でラグビーを続けてこれたのも、常に自分を信じ続け、努力し続けた結果だと思います。また、七、八月の模試の結果がD判定でも、それから頑張ってセンターで思うような点数がとれたのも誰よりも自分を信じれたからだと思っています。「信は力なり」です。ぜひ頑張ってください。

僕が大切にしてきたことは以上ですが、これをふまえて自分なりの信念を築き上げてください。そうすれば必ず上手くいくはずです。

最後に、今まで良くしてくださった先生方、そしてこの試験のため練習に混ぜてくれたハンドボール部の皆さんには本当にお世話になりました。この紙面を借り、感謝したいです。ありがとうございました。真和の皆さんのご健闘を祈っています。

大学受験の厳しさ

広島大学　文学部　飯田　悟史

真和の皆さん、特に受験生の皆さんに言いたい事は山程ありますが、いくつかにしぼって言いたいと思います。

まず部活と勉強についてです。私はバスケット部に所属していましたが、練習は週四日程度で個人的にはもの足りないと感じていました。そこである先生がおっしゃったことを実践しました。それは例えばテストで悪い点数をとったらそれを部活に、また部活で上手くいかないときは勉強にぶつけるということです。そうすれば部活と勉強の両立もできると思います。

次に日常生活についてです。国立を目指す人には特にですが、センター試験はとても過酷なものです。朝から晩まで試験というのは想像を絶するものです。だから普段の学校生活をおろそかにせず、普段から練習の気持ちで生活し、自分の生活リズムを一定にすること（特に朝型にすること）をお薦めします。

ここからは本格的に受験に関する忠告をしたいと思います。

初めに本要三教科の中でも特に英語を頑張ることです。英語は苦手な人は苦手ですが得意な人はどんな難しい問題でも解きます。だから毎日英語にふれた方がいいと思います。勉強法などは英語の先生に聞いて下さい。

次にセンター・二次試験の過去問についてです。現役生である皆さんは受験対策を始める時はまず志望大学の赤本を一年分解いてみて、今の自分との力の差を実感してみるといいと思います。そうすれば自分が何を頑張るべきかが分かります。センターの過去問を全教科する必要はありませんが、数学や国語は特に形式に慣れた方がよいでしょう。センター試験を軽視している人は気をつけて下さい。センター試験は簡単なものではありません。東大トップクラスの人でも満点をとることは難しいです。もしセンター試験を失敗してしまったらどんなに二次力がある人でも二次試験を受けることができないなんてこともあります。だからセンター対策はしっかりとやって下さい。

最後に勉強法についてです。東大のノートのとり方などの本が出版されていますが、必ず自分に合って成績が上がるかどうかは分かりません。人にはそれぞれ合った勉強法があります。しかし、それを見つけるために様々なことをやってみなければならないことも事実です。例えば朝昼夜のどの時間帯にどの位の時間するのがよいか、声に出して覚えるか書いて覚えるか、など時間はかかりますが自分に合った勉強法を見つけることは重要です。そのために先生や友達からアドバイスをもらったり、ノートのとり方などの本を参考にするといいと思います。

大学受験は高校受験とは勉強する科目数も難しさも比べものにならないほど違うし、何より競争相手が全国区です。つまり学校内や県内で争っても意味がないのです。いくら学校のテストや模試で良い点をとっても、本番で失敗すると浪人しなければなりません。一年間の浪人生活はとても辛いと思います。からもし現役で合格したいと本当に思っているのならば、学校のテストや模試でおごることなく適度な緊張感をもって受験勉強に励んで下さい。現役生の強みは最後まで成績が上がる可能性を秘めていることです。最後まで粘り強く頑張って下さい。

後輩に伝えたいこと

名古屋大学　工学部　化学生物工学科　平山　幹朗

皆さんこんにちは。私は公募推薦入試で名古屋大学に合格しました。そこに到るまでに多くの壁にぶつかり、それを越えて度にいろいろなものを得ました。ここでは、そんな壁と得たもの、そして推薦入試のアドバイスを紹介したいと思います。

最初の壁は、高Ⅱの終わり頃から現れました。それは祖母です。祖母は戦前の人で、工業＝鉄鋼業中心という考えしかなく、私の進路に大反対でした（当初は九大の工でした）。この壁を突破するのには半年近くかかりました。二日に一度のペースで大喧嘩したり、現代の工学というものを声がかれるまで説明したり…。でも、今思うと、これはそれだけ自分が工学部に本気で行きたいという証拠でもあったと思います。本気だから、みんなことが出来るのです。皆さんは今の進路で満足していますか。本気ですか。そうじゃないと、いつか後悔しますよ。

次の壁は推薦の書類審査に必要なレポートでした。私は、以前化学部で、竹から紙を作れないか、と考え研究したことを思い出し、これをレポートにしようと考えました。が、ここで壁がぶつかる。紙が作れないという事態に直面したのです。毎日試行錯誤をしますが、どれも失敗。期限が迫り、どんどん焦ってきました。私はここで、一時全てを中断し、もう一度最初から考え直しました。しばらく思考停止状態でしたが、多くの大学で聞いていた、それが見事成功に繋がりました。レポートの文章は早い内から修正を続けていたのですぐ出来ました。この説明する力を身に付けると他の受験生に差をつけれると思うので、普段の生活から練習をしておいて下さい。私のオススメの練習方法は、いろんな人に自分の意見を聞いてもらったり、アドバイスをしてもらったりです。その際、ポイントになるのは、いろんな人、です。例えば、国語の先生と生徒では、国語力に関して差があるだろうし、年齢や性別によっても差があるから、返ってくる修正やアドバイスに差が出ると思います。いろんなアドバイスが返ってきます。実際、面接の練習はいろんな教科の先生にお願いしてみてもらった。複数の友達に見てもらいました。これは大きな自信にも繋がるので、やってみて下さい。

壁と得たものはこれくらいにしておきます。きっと他の方がそういったことを書かれると思います。これからは推薦の対策をして、私が思ったことを書きたいと思います。

私が大切だと思ったことは、自分なりの考えを持って他人に説明することの大切さです。過去問を見ると、多くの大学で聞かれていますし、説明する力を見れるのは推薦の特徴でもあります。この説明する力を身に付けると他の受験生に差をつけれると思うので、普段の生活から練習をしておいて下さい。私のオススメの練習方法は、いろんな人に自分の意見を聞いてもらい、聞き手から修正してもらったり、アドバイスをしてもらうことです。その際、ポイントになるのは、いろんな人、です。例えば、国語の先生と生徒では、国語力に関して差があるだ

広島大学　教育学部　新道　岳章

広島大学　工学部　化学生物工学科　平山　幹朗